



榊

Yuin 北海道大学附属図書館報

目次

巻頭言	大学図書館等関連事業説明会 - NII Library Week 2003 - 開催される…16
北大125年史の編集・刊行を終わって	コラム
元附属図書館長・北海道大学125年史編集室長 原 暉之…1	今も昔も「延滞図書」は頭痛の種…17
資料紹介	情報リテラシー
ロナルド・ドーア文庫開設記念式典が開催されました…6	医学部図書館における情報リテラシー教育支援について…18
ドーア文庫の開設について	インターンシップ
大学院法学研究科附属高等法政教育センター長 山口 二郎…7	平成15年度附属図書館インターンシップの実施について…20
お知らせ	図書館インターンシップを終えて
来館日誌…10	図書館情報大学3年 荒木 忠理…21
オープンユニバーシティが実施されました…11	図書館実習を終えての感想
学生用「シラバス掲載図書」(本館・北分館)の整備進む…12	図書館情報大学3年 山田 有美…23
データベース、電子ジャーナル等講習会の実施について…13	教官著作寄贈図書…24
北海道大学附属図書館講演会(平成15年度第1回)が開催されました…14	会議…25
北海道大学附属図書館講演会(平成15年度第2回)が開催されました…15	人事往来…27

北大125年史の編集・刊行を終わって

元附属図書館長・北海道大学125年史編集室長 原 暉之

2001(平成13)年に創基125周年を迎えた北海道大学が同年一連の記念事業を実施・挙行了たことは記憶に新しい。あるいは、すでに遠い過去のことと感じられる向きもある。いずれにしても、一連の記念事業のうち最も長い歳月を要し、着手以来6年も仕事を引きずっているのは125年史の編集をおいて他にない。この場をお借りして、北海道大学125年史編集室(以下、年史編集室)が本部事務局および全部局を含む全学的支援のもとに、ようやくこのほど『北大百二十五年史』通説編の刊行(2003年12月刊)

に漕ぎ着け、これをもって今回の年史編纂事業が終了したことをご報告しておきたい。

同書は、その別冊として編まれた論文・資料編(2003年3月刊)とともに『北大百二十五年史』全2冊を構成し、既刊の小史『北大の125年』(2001年3月刊)および『写真集北大125年』(2001年12月刊)に続き、北海道大学創基125周年記念事業の一環として年史編集室が関わった一連の出版企画のうち、最後の刊行物である。

以下の小文では、以上4点の刊行物を出版するに至った経緯、その内容について簡単に述べ、

あわせて今後の展望についてもふれることにしたい。

本学は創基120周年記念式典の挙行(1996年10月)後、2001年に迎える創基125周年を次の節目の年に設定し、1997年5月に「北海道大学創基125周年記念事業計画委員会」を置いて、記念事業の輪郭について検討に入った。同委員会が「北海道大学創基125周年記念事業実行委員会」に発展的に解消され、同時に附属図書館長を座長とする「125年史世話人会」(以下、世話人会)が発足したのは同年12月であった。世話人会は1998年3月末までに5回の会合をもち、すでに「計画委員会」において創基125周年記念事業の個別事業の1つに挙げられていた年史編纂について、その基本事項、実施体制、編集組織、基本方針の原案作成を検討した。検討の結果、125年史の編纂に当たって、創基から125年のうち最初の100年分についてはすでにある『北大百年史』を要約する形で活かすことにし、「主としてその後25年分を増補することに力を注ぐことが妥当であろう」という基本方針案が固まった。

具体的には、通史・部局史・基礎資料(規程・式辞・統計・年表等)を1巻にまとめた『北大百二十五年史』とその別冊として論文集を刊行すること、通史のページ配分としては、100年分の要約と25年分を増補との比率を「1対2または1対3程度」とし、「部局史についても同様」とすること、以上2点のほかに、『写真集北大百年』の改訂版として『写真集北大125年』、小冊子『写真で見る北大125年』(仮題)、新入生に読みやすい新書版の小史『北大の近代』(仮題)の3点も合わせて刊行することとした。編集の期間としては、1998年度から発足し、最大5年を目途として編集にあたり、記念式典の挙行を予定する2001年秋までに小史と小冊子を刊行すること、写真集も同年刊行を目指し、『北大百二十五年史』と別冊の論文集は2002年度刊行を

目指す、との方針が立てられている。この方針案は、1998年4月の「実行委員会」、評議会で了承された。

これをうけて同年6月に「実行委員会」の下部組織として附属図書館長を委員長とする「出版等専門委員会」が設置され、同年10月には後者の下部組織として年史編集室が設置されて、編集体制が発足した。

「出版等専門委員会」は、編纂の基本方針と実施上の重要事項を審議するほか、部局間の連絡調整をその任務としていた。部局の区分け、部局史のページ配分は同専門委員会で審議・了承された案に基づいている。

年史編集室は、室長の下に専任の編集員と補助員を置き、執筆要項の策定、基礎資料、写真資料の収集・整理を行い、刊行物ごとに「専門編集班」を組織して、それぞれの構成や内容について検討を進めるとともに、大学史研究会を企画して学外から有識者をお招きし、大学沿革史研究の全国動向について有益な知見をえることができた(1999年1月21日第1回、同年3月26日第2回、2000年4月13日第3回)。また全学的な情報交換に役立ててもらおうと考えて『北海道大学125年史編集室だより』を発行した(1999年3月31日第1号～2003年3月31日第6号)。

編集の実務は「実行委員会」と評議会で全学的に了承された大枠に沿って進められたが、編集作業の途上で一定の軌道修正をはかった個所もあった。まず、写真集と小史について当初の計画では、①『写真集北大百年』の改訂版、②125年の歩みをスケッチする小史(新入生に読みやすい新書版)、③小冊子『写真で見る北大125年』(仮題)を作成する予定であった。軌道修正をはかったのは、これらのうち相互に重複する関係にある②と③を合体し、写真も豊富に取り入れた小史『北大の125年』に一本化したことである。この修正は、1999年11月の「出版等専門委員会」幹事会を経て、2000年1月の評議

会で了承された。また、『北大百二十五年史』通説編は、当初の計画では通史・部局史・基礎資料を包含し、別に論文集を単独の1冊（仮題『北大百二十五年史・別冊』）とすることが予定されていたが、両巻のページ数の極端な不均衡を回避するという技術的な事情もあって、基礎資料（規程・式辞・統計・年表等）を通説編から別冊に移し、別冊は『北大百二十五年史』論文・資料編とすることに決定した。通説編は通史と部局史から構成することになったが、その通史部分についても、創基から100年分を要約する第1編、これを増補する25年分の前半部分を扱う第2編、後半部分を扱う第3編から構成する当初の構想に対して、キャンパスの変遷に焦点を当てる第4編を付加した。この部分の付加は『写真集北大125年』の編集作業を通じて校舎の配置図など新資料が発掘され、その分析によって多くの知見がえられたことの所産であった。

刊行物の出版時期についても、当初の計画からやや異なる結果となった。当初、小史と小冊

子の刊行を2001年秋までに刊行することを予定して編集作業を進めたが、結果的には両者を合体した『北大の125年』を同年3月に刊行する運びとなった。21世紀最初の入学生にその成果を直接届けることを念頭において、年史刊行の一部計画前倒しを図ったのである。『北大百二十五年史』通説編および論文・資料編の2冊は「2002年度刊行を目指す」との当初計画に基づいて編集作業を進めたが、年史編集室で担当した作業量が当初の想定を大幅に上回ったこと、その他諸般の事情によって、2003年度刊行とせざるをえなかった。この遅滞については、記念事業全般についてご支援をいただいた「北海道大学創基125周年記念事業後援会」の関係者をはじめ、激励のお言葉とご協力をいただいた同窓生、名誉教授の先生がた、学内の教職員の皆さま、とくに学内にあっては部局史の編集・執筆に多大の労力を割いて期限内に原稿を提出して下さった各部局編集委員の先生がたに深いお詫びの意を記しておきたい。

企画段階からの長い経過のなかで、125年史



『北大百二十五年史』の通説編と論文・資料編

の編集作業を終了するまでには、数多くのかたがたに多大のご指導とご協力を仰いだ。そのかたがたのお名前は『北大百二十五年史』通説編の「あとがき」に譲るが、ひとこと付言すれば、全国の大学でそれぞれに沿革史研究、編纂事業に携わってこられ、本学の進める125年史の編纂にさまざまな角度から有益なご助言を賜った学外の先生がた、またかつて本学100年史の編纂に携わられた学内外にまたがる先生がたには特段のお世話になったことを銘記しておきたい。

こうして125年史編集室は合計4冊の刊行物を世に問うことになった。『北大の125年』は手軽に読み物感覚で手に取れる書物をめざし、読者としては新生を想定した簡略版通史である(A5版140ページ)。『写真集北大125年』はキャンパスの形成・展開過程を主軸に据え、過去と現状の建物配置図を対照できるような工夫が凝らされている点が類書にない特徴である(A4版219ページ)。『北大百二十五年史』通説編は、札幌農学校以来の北海道大学の歴史を全体として通観する第1部「通史」と、大学を構成する部局ごとの個別史を束ねる第2部「部局史」からなる(xxiii+1343ページ)。『北大百二十五年史』論文・資料編は、投稿と依頼による研究論文および北海道大学関係文献目録からなる「論文編」と歴代学長・総長および部局長・式辞等・学内規程等・統計・年表からなる「資料編」の2部構成となっている(xxii+1093ページ)。

全体として、今回125年史の編纂でつねに念頭においたのは、『北大百年史』全4巻および『写真集北大百年』という先行者の存在であった。『北大百二十五年史』全2巻の造本のスタイルも『北大百年史』を踏襲し、題字も先行者を継承している。ただ今回の『北大百二十五年史』では、『北大百年史』の当時には想像もできなかった刊行形態も採用されている。それは通説

編巻末のポケットに収められている1枚のCD-ROMである。通説編の通史と部局史、論文・資料編の基礎資料(歴代学長・総長および部局長・式辞等・学内規程等・統計・年表)を収録し、キーワード検索も可能なので、高い利用価値が期待できると考えている。

125年史の編集・刊行を終わるに当たり、次のステップとして特段の全学的な取り組みを要望しておきたいことは、本学の歴史に関する資料の収集・保存・公開の体制づくりに向けた方策についてである。

このような方策が不可欠であるという問題意識は、今回の年史編纂事業の出発点で学内に広く共有されており、すでに世話人会の答申「北海道大学125年史の編纂について」(1998年4月9日「実行委員会」了承)のなかで「125年史刊行後も、資料の収集と整理・保存のために必要な体制を確立することが望ましい」との提言がなされていた。

年史編集室ではその発足以来、事務局および諸部局から数多くの学内資料のご提供を受け、また学内外から寄贈・寄託を受けた貴重な個人資料もかなりの点数にのぼっている。

また、今回の年史編纂事業に先立ち、附属図書館北方資料室に併設されている本学沿革資料室は100年史の編纂時およびそれ以前からの貴重な大学資料を保存してきた。これらの資料を一元的に統合し、今後も継続して収集・整理・保存し、学内外に公開するとともに、大学史の研究・教育活動に継続的に役立てて行く体制の確立が望まれるのである。

一方、近年の大学を取り巻く環境の変化の一つとして、情報公開法(2001年4月1日施行)への対応も真剣な考慮の対象とされねばならなくなった。大学運営上、非現用となった行政文書を保存し、保存年限が満了したものについては、その廃棄か保存かの判断を行う組織を設置することが求められているのである。この点に

ついて、本学情報公開に関するワーキンググループはその検討結果報告(2001年1月17日評議会了承)のなかで「なお、保存期間が満了した行政文書については、公文書館等の機関へ移管するものを除き、廃棄することとされている(施行令第16条)。しかし、廃棄されることとされている文書のうち、本学において歴史的、学術的に貴重な文書については、保存期間満了後も、例えば本学附属図書館に移管するなどして管理する等の方策を考える必要がある。」と提言していた。

ここに引用したように、2001年当時は「例えば本学附属図書館に移管するなど」と書くのが精一杯であったが、その後の経緯のなかで、学

内の非現用行政文書の移管先として新たに北海道大学文書館(仮称)を設置する構想が固まってきた。この流れを受けて、2003年10月評議会は「北海道大学文書館(仮称)設置検討ワーキンググループ」の提出した答申に基づき、「北海道大学の歴史に関わる各種の資料の収集・整理・保存・公開、及び調査研究を行うための機関」としての北海道大学文書館(仮称)を設置する方針を決定した。個人的な感想になるが、大学沿革史編纂の一端を担ってきた者として、この評議会決定はたいへんに心強い決断であったとの感を深めている。



北海道大学創基125周年記念刊行物

資料紹介

ロナルド・ドーア文庫開設記念式典が開催されました

ロナルド・ドーア文庫開設記念式典が、来日中のドーア氏（ロンドン大学名誉教授）ご本人を迎えて、平成16年2月9日（月）午後1時から附属図書館4階貴重資料室前で行われました。

当日は、井上附属図書館長の謝辞と山口大学院法学研究科附属高等法政教育センター長の挨拶の後、ドーア氏のスピーチがありました。

スピーチは、流暢な日本語で行なわれ、45年前に初来日した時の思い出などを時々ユーモアを交えながら話されました。集まった人々の間からは、笑い声も漏れるなど和やかな雰囲気の中でのお話でした。

続いて上記3氏によるテープカットと文庫見学があり、配架された本を手にとっての談笑がありました。

その後、ドーア氏らは、北方資料室を訪れて本学の沿革資料などを熱心に見学されていました。



テープカットする

左から山口センター長、ドーア氏、井上館長



スピーチするドーア氏



文庫見学

ドーア文庫の開設について

大学院法学研究科附属高等法政教育センター長 山口二郎

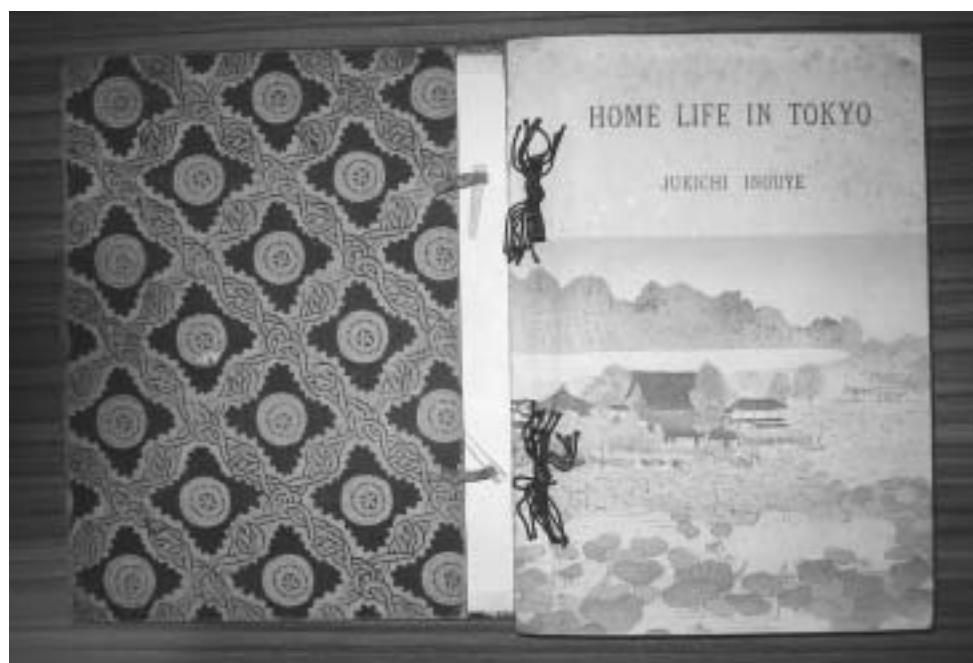
1 開設の経緯

外国における日本研究の第一人者、ロナルド・ドーア教授の日本関係の蔵書を、このたび北海道大学図書館に収蔵し、ドーア文庫として広く内外の日本研究者の利用に供することとなった。1925年生まれのドーア氏は、依然として研究意欲旺盛で、あとで紹介するように、精力的な執筆活動が続いている。その意味で、研究者としては現役ではあるが、イタリアに生活の拠点を定めることを契機に、日本研究のために集めてきた多くの文献をまとまった形でどこかの大学図書館に譲るという決意をされた次第と聞いている。中村研一副学長の友人であるケンブリッジ大学のアラン・マクファーレン教授を通して、この意向が北海道大学に伝えられ、今回のドーア文庫開設に至った。

ドーア氏の蔵書は、私が研究代表者を務めている科学研究費学術創成「グローバル化時代におけるガバナンスの変容に関する比較研究」のための資料収集として購入された。この研究は、グローバル化が進展する中で、民主主義的な統治システム、国民国家における中央政府と地方政府の関係、経済社会政策などがどのように変化しているのかを明らかにし、市民社会の側からの新たなグローバル化戦略を提示することを目指している。ドーア氏の近年の著作は、我々のこうした問題意識と符合している。

2 ドーア氏の日本研究

ドーア氏が日本の経済社会に関して優れた実証研究を行ってきたと同時に、日本政治のあり方についてユニークな提言を行ってきたことは、ここで改めて紹介するまでもない。外国における日本研究といえば、バブル時代に花盛りであったアメリカの一部の日本研究者のように、日本の政治経済システムを過度に美化し、モデル化するタイプを思い出す人も多いだろう。しかし、この種の議論は時代



ドーア文庫の1冊

の変化によってたちまち色あせる。逆に、日本の経済が停滞し、社会が混迷してくると、日本に対する議論は、その遅れやゆがみを指摘し、グローバルな基準を受容するよう説く者が目立つようになる。日本に関する議論のこのような「揺れ」は、日本研究の蓄積の浅さに関連している。

この点で、ドーア氏の研究の一貫性と視野の広さは際立っている。同氏は、日本の企業における経営や労使関係、教育、農村社会、政治や行政など、近現代の日本のさまざまな分野に関して鋭い分析を行ってきた。これらの研究は、対象に対する愛着に支えられながらも、決して対象に没入せず、これを美化しないという、研究者として当然の、しかし決して容易ではない距離感に裏打ちされている。非西欧世界においていち早く近代化を遂げ、経済的豊かさと社会的安定を実現した日本の政治経済システムの長所を的確に探り出し、同時に日本にかけているものや日本社会の多数派が失ったものについても常に注意を払っている。また、日本的システムを常に欧米の政治・経済システムとの比較を通して特徴付けるという手法がドーア氏の議論の底に流れている。こうしたバランスの取れた評価が、ドーア氏の日本研究を貫いている。



ドーア氏の著書

3 近年の展開

冷戦構造の崩壊、経済グローバル化の進展という新たな事態の前に、ドーア氏は、自信を失った日本人に代わって日本的経済システムや安全保障政策の再評価と、グローバル化時代に対応した新たなモデル化に取り組んでいる。この点が、我々の学術創成研究と符合していると述べたゆえんである。

まず、経済システムに関しては近著『日本型資本主義と市場主義の衝突』（東洋経済新報社刊、原題は、Stock Market Capitalism:Welfare Capitalism）において、アメリカをモデルとする市場中心主義に対する対抗モデルとして、日本型資本主義の再生の可能性を論じている。その中で、ドーア氏は年来のテーマである日本的経営システム（現在の言葉で言えばコーポレート・ガバナンス）、労使関係、企業間関係に関する新たな調査を行い、レトリックとしてのグローバル・スタンダードや大競争時代と、日本経済の現実における従来の仕組みの生命力を対比している。そして、日本とドイツの経済システムとアングロサクソン型資本主義とを対照し、一握りの勝者が富を独占し、勝ち組と負け

組みの格差を広げ、結局社会を不安定にするアメリカ型モデルとは異なったモデルとして日本のモデルを再発見、改革することを提唱している。

また、対外政策に関しては、『こうしようといえる日本』（朝日新聞社刊）や新聞雑誌等の時評において憲法9条の再定義と、新たな国際貢献のあり方を提案している。一方で、冷戦時代に流れていた孤立主義的な平和主義としての護憲のあり方に変化を迫り、同時にアメリカの一極主義的な世界戦略に追従するのではなく、世界が日本に本当に求めている有意義な国際的役割を担うことを提唱している。この議論は、伝統的な護憲論の掲げた理想主義とは異なっており、いわば現実を踏まえたバージョンアップされた理想主義ということもできる。ドーア氏のこの提案は、911以後のアメリカの単独主義的な行動と、それに日本が追従しようとしている現状を見ると、いっそう大きな示唆を持つ。

我々の学術創成研究も、まさに市場メカニズムを唯一の社会構成原理とするグローバリゼーションの進行に対して、社会的連帯をいかに確保するか、環境、コミュニティ、個人の自己実現など市場によっては達成されない価値をいかに実現するかという関心から、日本や西欧諸国の政治・行政システムや政策を研究している。その際、国内政治においては「ソーシャル・ガバナンス」、国際社会においては「マルチ・ラテラリズム」をキーワードにして、新たなパラダイムの構築を目指そうとしている。ドーア氏の近年の議論は、我々のプロジェクトにとっても重要な手がかりを与えてくれる。ドーア文庫の開設は、我々とドーア氏との研究上の絆を強化する契機となるに違いない。

4 新たな研究拠点を目指して

ドーア文庫は、北海道大学にとってだけでなく、世界中の日本研究者にとっても貴重な財産となる。社会科学分野において現代日本を研究しようとする学者にとって、ドーア文庫は重要な素材を提供する。とりわけ、外国の日本研究者が日本において研究を行う際の拠点として北海道大学が役立つことが期待されている。このように、ドーア文庫の開設は、北海道大学が国際的な知的交流の中心として発展する上で、記念すべき事業である。



ドーア文庫

お知らせ

来館日誌

(平成15年6～12月)

No.	来館者	来館日	時間	人数	備考
1	北大祭ライブラリートツアー	6月5日		-	6月8日まで計7回
2	北大 CampusVisit	7月19日	11:10-11:40	-	
3	函館東高等学校生徒	9月4日	14:00-15:30	280	
4	藤枝西高等学校生徒	10月3日	9:30-10:00	14	
5	サウジアラビア王国 最高ウラマー評議会(国王顧問機関)メンバー	10月2日	11:00-11:20	7	
6	滝川高等学校父母と教師の会	10月9日	11:00-12:00	15	
7	北大 CampusVisit (留学生向)	10月11日	13:15-14:15	57	
8	北海道ハイテクノロジー専門学校生	10月24日	14:30-16:00	41	
9	札幌日本大学中学校保護者会	11月6日	11:00-12:00	25	



北方資料室を見学するサウジアラビア王国最高ウラマー評議会(国王顧問機関)メンバー

オープンユニバーシティが実施されました

平成15年8月4日に札幌キャンパスにおいて「平成15年度北海道大学オープンユニバーシティ」が実施されました。附属図書館では、「大学の図書館をみてみよう!」と題し、図書館とはどういうところなのか、どんなサービスがなされているのかを中心に参加者に説明しました。実施内容、参加者数等は以下のとおりです。

【本館】

◎内容

- ・ 館内ツアー（開架閲覧室→書庫→北方資料室→参考閲覧室）
- ・ OPAC（蔵書検索）のデモンストレーションと体験

◎時間

- 1回目 11:00-11:45, 2回目 13:00-13:45
- 3回目 14:15-15:00, 4回目 15:30-16:15

◎配付資料

- ・ 図書館利用案内 - はじめての方へ -
- ・ 北方資料室概要
- ・ OPAC の使い方

◎参加者数

69名（各回合計）

【北分館】

◎内容

- ・ 館内ツアー
- ・ インターネットのデモンストレーションと体験

◎時間

- 1回目 12:00-13:00, 2回目 14:00-15:00

◎配付資料

- ・ 図書館利用案内 - はじめての方へ -
- ・ 情報検索の初歩

◎参加者数

4名（各回合計）

参加者は、夜10時まで開館していることや蔵書の多さに驚いているようでした。来年度からは、よりわかりやすい説明と最新のサービスを図解したプリントを配布して、もっと参加者にアピールできればと考えています。

学生用「シラバス掲載図書」(本館・北分館)の整備進む

附属図書館と北分館では、平成12年度より学生用図書資料を更に充実・整備しようという計画を進めてきましたので、その整備状況についてお知らせします。この計画は平成12年度から、全学のご理解の下に新たに措置された学生用図書費に拠り進められているもので、授業・講義の内容に直結した学術書や参考書等を更に充実させて、図書館における自学自習環境の改善を進め、おおいに利用していただくというものです。

そこで、まず、「シラバス(全学教育科目・専門教育科目)」に掲載されている講義指定図書を全て、本館と北分館に最低1冊は備えることにしました。この3年間、2000シラバスを皮切りに収集を続け、OPAC(学内の所蔵情報)とのリンク情報の埋め込み等を含めてほぼ軌道に乗り、今後は新規に書き込まれる講義指定図書は勿論のこと、高利用頻度図書の複本整備や教科書で図書館所蔵が相応な資料の整備にも収集範囲を拡大できそうな条件ができました。この計画では基本的叢書・講座・シリーズ等の整備も進めてきておりますが、ここでは、シラバス掲載図書の購入実績を報告いたします。

1. シラバス掲載「講義指定図書」等の購入冊数

購入年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	合計
本館	784	1159	849	2792
北分館	933	1212	868	3013
合計	1717	2371	1717	5805
対象シラバス	2000+2001	2001+2002	2002+2003	

(注①本・分館に未所蔵分は全て発注しておりますが、絶版・品切れ等によるキャンセルが多数あります)

(注②開始年度の平成12年度は2000シラバス(冊子体)から発注、システム上の制約から、2001シラバス分発注が年度末となり、多数が平成13年度にずれ込み納入された結果が上表となっております)

2. シラバスに具体的に「書名」が記入されている授業科目数(%:対授業科目総数)

シラバス入力開始に併せて、図書館では入力されたデータと本・分館の所蔵データとを照合し、4月開講時に間に合うように購入手続きを進めます。今のところ、具体的な「書名」が記入されている授業科目数は、全学教育科目で15%前後、専門教育科目は徐々に30%に近づきつつあるところです。

	2001(H13)シラバス	2002(H14)シラバス	2003(H15)シラバス
全学教育科目	282(13%)	353(17%)	309(14%)
専門教育科目	1318(24%)	1376(26%)	1344(28%)
全科目	1600(21%)	1729(24%)	1653(23%)

(注①「書名」以外に「授業のなかで指示する…」等の記入が多数ありますが、除外してあります)

(注②複数授業科目が同一図書を指定するケースが多数あります。従って購入冊数とは異なっております)

(注③2000シラバスは冊子体であったため、データがありません)

データベース、電子ジャーナル等講習会の実施について

平成15年6月から附属図書館参考調査掛と他部局図書室との共催で、以下のような提供者によるデータベースや電子ジャーナルの講習会、説明会が開催されました。

○LexisNexis Academic 講習会 6月24日(火)

世界各国の新聞や企業情報等を収録している全文データベース LexisNexis Academic の基本操作やアラート機能を使った効率的な記事検索方法を学びました。

10:30-12:00 北分館会場にて国際広報メディア研究科の院生、教官20名が参加

13:30-15:00 附属図書館4階中会議室に於いて文系学生、教官および図書館員等20名が参加

○ISI Web of Knowledge 説明会 10月21日(火)

すでに利用されている研究者を対象に Web of Knowledge バージョンアップ後の新機能紹介とユーザー登録作成画面の紹介等を中心に説明を受けました。また研究者からの質疑応答があり、日頃の疑問等を提供者から説明を受け、理解を深めることができました。

10:30-12:00 附属図書館4階中会議室に於いて図書館職員を中心に17名が参加

15:00-16:30 工学部第二会議室に於いて大学院生、教官19名が参加

○Science Direct 講習会 11月9日(水)

電子ジャーナル ScienceDirect の使い方を中心に初級編、中上級編に分け、各々のレベルにあわせた内容で端末を操作しながらトレーニングをおこないました。

10:30-12:00 附属図書館北分館会場に於いて学生、院生、教官を中心に13名参加

13:30-15:00 附属図書館情報検索コーナーに於いて図書館職員、学生を中心に15名参加



ISI Web of Knowledge 説明会 (工学部会場)

北海道大学附属図書館講演会(平成15年度第1回)が開催されました

平成15年10月9日(木)北海道大学附属図書館会議室において、道内国公私立大学等の図書館職員を対象とした平成15年度第1回北海道大学附属図書館講演会が開催され、約60名の参加がありました。

今回の講演会では、慶應義塾大学三田メディアセンター事務長 加藤好郎氏による「慶應義塾図書館の経営戦略：国公私立大学の新たな枠組み」、国立国会図書館関西館資料部文献提供課長 吉本紀氏による「関西館開館1年とこれからの国立国会図書館」の2つのテーマのもとご講演をいただきました。常に新しい試み続けるこの両館の講演は、とりわけ独立行政法人化を目前に控える国立大学図書館にとってインパクトのある内容で、今後の図書館のあり方を考えるうえで大きな刺激となりました。



加藤慶應義塾大学三田メディアセンター事務長



吉本国立国会図書館関西館資料部文献提供課長

北海道大学附属図書館講演会(平成15年度第2回)が開催されました

平成16年2月2日(月)北海道大学附属図書館会議室において、道内国公立大学等の図書館職員を対象とした平成15年度第2回北海道大学附属図書館講演会が開催され、約70名の参加がありました。

今回の講演会では、筑波大学図書館情報専門学群長 植松貞夫氏による「大学図書館の建築と設備について」、国立情報学研究所開発・事業部次長 小西和信氏による「学術情報流通の基盤整備のために - 法人化後のNIIの開発・事業」の2つのテーマのもとご講演をいただきました。

植松学群長は、最近の大学図書館を取り巻く環境の変化を分析・整理して説明し、この観点から施設と設備を考えることの重要性について強調されました。後半は、スライドを使って、欧米図書館に見る最新の機能的な建築、施設、設備の紹介と解説があり、参加者からは大きな反響がありました。

小西次長は、国立情報学研究所(NII)における法人化後の開発・事業の位置づけと組織体制、情報提供サービスの高度化およびシステム提供サービスの拡充などについて、わかりやすく説明されました。NIIにおける今後の事業展開は、大学における教育研究支援機関である図書館の事業およびサービスと密接な協力・連携関係にあるため図書館員の関心も高く、参加者は終始真剣に耳を傾けていました。



植松筑波大学図書館情報専門学群長



小西国立情報学研究所開発・事業部次長

大学図書館等関連事業説明会 ～ NII Library Week 2003～ 開催される

国立情報学研究所 (NII) が大学図書館等と連携して推進する各種事業についての説明会が、平成15年10月10日 (金) NII 主催で附属図書館大会議室において開催されました。本説明会は、従来の新CAT/ILL 説明会、学総目全国調査説明会、メタデータ・データベース共同構築事業説明会を統合したもので、北海道大学を始めとした道内34の教育機関・研究機関から80名を越える職員が参加して行われました。

午前中は「GeNii : NII 学術コンテンツ・ポータル」「NII-REO : NII 電子ジャーナル・リポジトリ」、午後には「メタデータ・データベース共同構築事業」「NACSIS-CAT/ILL サービス」等といった我が国の最先端の学術情報技術を応用・運用した NII の各種事業が説明され、今後の学術情報サービスの展開上重要となるこれらの事業に関して各機関から盛んに質疑応答が交わされました。



国立情報学研究所国際・研究協力部長の根岸教授



説明会の様子

コラム

今も昔も「延滞図書」は頭痛の種

「貸出期限を過ぎても返却されない延滞図書に迷惑を被っている。延滞日数分、次の貸出が出来なくなるようなシステムに変えて欲しい。現システムはモラルの点からも芳しいと言えない…」これは昨春利用者から図書館に寄せられたメールである。昨秋、図書館が外部評価を受けるための資料として実施した利用者アンケートでも、「延滞者にペナルティを」「延滞に厳しい処理を」との回答が続く。延滞の最大の被害者は利用者だが、延滞図書を無くすための督促業務・費用など図書館サイドの損害も小さくはない。

さて、札幌農学校時代から現図書館竣工(昭和40)まで附属図書館は農学部北玄閣脇にあった。その旧附属図書館書庫にあった蔵書を整理していると、時としてすっかり茶色に変色した、貸出時に図書に挟む所謂「葉」というか「短冊」が見つかる。ここにご紹介する、手書き・謄写版刷りの文面は、年表示がなく何時のものか判定できないが、往時の館員の苦勞を偲ばせるものである。

- ・この書物を他にも読みたがってある人があります。期限が来なくとも、お済みになり次第早くお返してください。
- ・若し何かの事情で、ひどく返却日に遅れても、決して躊躇されることなく、お気づき次第すぐお返してください。

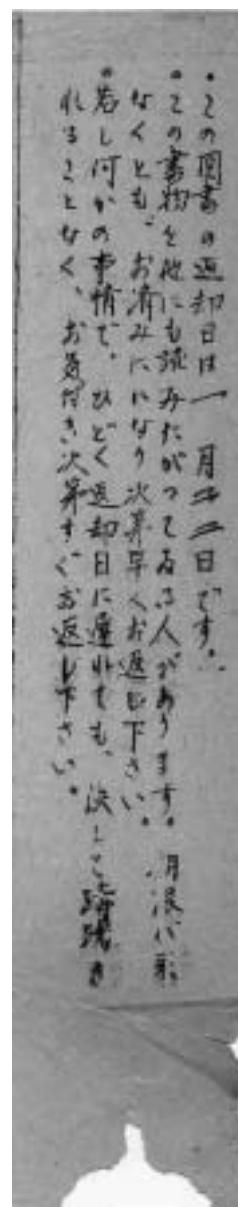
この葉が挟まっていた図書は、「Animal rights : considered in relation to social progress. by Henry S. Salt. Rev. ed. London, George Bell and sons, 1900」。背が破れ墨で汚れ、背ラベルが貼付されているが登録番号などは見あたらず、扱いが定かではない。タイトルに惹かれて調べてみると、この言葉を初めて標題として出版し、「動物の権利」運動の思想的基盤となったことで著名な古典のようである。動物の権利を論ずる書物がこんな早い時期に出版されており、それを我々の先達が読んでいたとの感慨は深い。

初版(同出版社1892)の所蔵が東京女子大学附属図書館新渡戸稲造記念文庫に確認でき、全国総合目録(Webcat)によると、初版のリプリント版(1980)が一橋大図にあるようだが、早速この図書も北大の蔵書として登録したい。

もう一つ、北海道帝國大学附属図書館名(大正7~昭和22)の「督促状」をご紹介します。

「下記の圖書最早期限切と相成候に付 月 日迄に必御返納爲被下度候」
(かきのとしよ、もはやきげんぎれとあいなりそうろうにつき、…までにかならずごへんのうなしくだされたくそうろう)

図書館のサービスも利用環境も情報化の恩恵を受け利便性はこれからも大いに進展していくに違いないが、お互いにモラルを守り、気持ちよく利用できるような配慮も忘れたくないものである。(M.S.)



古い葉

情報リテラシー

医学部図書館における情報リテラシー教育支援について

大学院医学研究科・医学部 図書閲覧掛

医学研究科・医学部図書館では利用者サービスの一環として、医学部学生に対する情報リテラシー教育を支援するため、平成11年度より、医学部臨床実習コース「医療情報学」実習の中で「文献検索ガイダンス」を、平成12年度より医学部基本臨床コース「医療情報学」の授業の一部の時間で「医学文献の探し方」と題したガイダンスを行ってきました。いずれも、当該科目を担当する櫻井恒太郎教授（医学研究科医療情報学分野）からの依頼を受けて実施されてきた取り組みですが、以下にその概要をご紹介します。

「医学文献の探し方」

基本臨床コースの必修科目「医療情報学」の授業の1コマ（90分）を用いて、今年度は6月18日に、櫻井教授同席のもと図書館員1名が「医学文献の探し方」についての説明を行いました。対象となったのは医学部5年次の学生95名で、場所は医学部臨床講義棟1階第4講堂です。

内容は、1.文献調査とは？（概要）、2.事項調査（参考図書）、3.文献の調査（文献検索ツール、EBM情報源）、4.所在の調査（所在目録、電子ジャーナル）、5.文献の入手（文献複写、著作権）について、配布資料に対応して作成したパワーポイントのスライドに沿って解説していきました。特に3～5では、医学分野のMEDLINEやThe Cochrane Libraryの検索、OPACや電子ジャーナルの使用、Web経由の文献複写申込など、オンラインで利用可能なものについてはデモンストレーションを交えて紹介しました。授業終了後には当日の内容に対応した簡単な文献検索課題を出し、学生の内容理解度を知る参考としました。

「文献検索ガイダンス」

基本臨床コースを修了した学生は臨床実習コースに進学しますが、5年次10月から6年次7月にかけて、6名前後のグループに分かれて1～2週間のローテーション方式で全ての科を回る臨床実習が行われます。その中の必修科目「医療情報学」では1週間ローテーション、隔週ペースで各グループが訪れ、問題解決型実習に取り組みます。火曜日に実習オリエンテーションがあり、学生は各自関心のあるテーマ（診療上の方針選択を伴うもの、賛否のある問題など）を選びます。水曜日は医学部図書館で「文献検索ガイダンス」を受けた後、実際に自分のテーマに関連する情報を収集整理し、金曜日に発表とDiscussionを行う、…というスケジュールになっています。

この「文献検索ガイダンス」は、図書館員1名が講師となり、学生は説明を聞きながら実際にPCを操作していくという形式で、2週間に1回（年間16回）実施され、所要時間は80分程度です。今年度より学内全体から各種データベースに接続可能な環境がほぼ整ったことを機会に、医学部教務掛のご協力により、館内の学生自習用PC10台を実習場所として確保することができました。ただし、その後同時接続数等の問題が発生したため、1人1台は今後の課題として、現在のところ館内情報検索コーナーの4台のPCを交代で操作しながらのガイダンスが基本となっています。なお、水曜日の午前中はMEDLINEのデータ更新作業等を行わないよう、担当の附属図書館システム管理掛にご協力いただいています。

学生は「医学文献の探し方」の授業を受けて概要を把握しているという前提のもと、ここでは、医

学分野の主要な遡及検索ツールである MEDLINE, PubMed, および医学中央雑誌の具体的な使用方を、例題を用いた検索を進めながら説明しています。これらのデータベースに共通するのは、体系的に整備された医学用語シソーラスが採用されているという点です。PubMed や医学中央雑誌は、シソーラスの自動マッピング機能により、思いついた用語を入力して検索するだけで簡単に多くの文献を得られやすい仕組みとなっていますが、その反面、精度の高い複雑な検索を行うにはシソーラスの意識的な活用が有効であることに重点を置いて解説しています。実習終了後には簡単なアンケートにご協力いただき、以後のガイダンスを行う際の参考としています。昨年度のアンケート結果は次の通りです。

文献検索ガイダンス アンケート結果：平成14年10月～平成15年6月
(回答者89名, 回収率94.7%)

1. 利用経験について

MEDLINE			医学中央雑誌			PubMed			Cochrane Library		
ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答
42	47	0	31	57	1	71	18	0	14	73	2
47.2%	52.8%	0.0%	34.8%	64.0%	1.1%	79.8%	20.2%	0.0%	15.7%	82.0%	2.2%

2. ガイダンスについて

内 容				時 間			
適当	易しい	難しい	無回答	適当	長い	短い	無回答
86	3	0	0	87	0	2	0
96.6%	3.4%	0.0%	0.0%	97.8%	0.0%	2.2%	0.0%

3. その他, 自由に記入 (抜粋)

- ・授業で大まかな内容をつかみ、ここで実践的に教えていただけるのでとてもよかったです。
- ・実例を示しながら説明していただけたので、非常にわかりやすかったです。
- ・もっと早くから教わっていただければよかったと思いました。
- ・どのような時に、どのデータベースを使うのが一番良いのか難しいと思った。
- ・Cochrane Library についてももう少し詳しく知りたいです。(有効な使い方など)

この数年間の活動を振り返ってみると、文献の調査から入手までの流れを概説する「医学文献の探し方」は、その大筋には変わりありませんが、情報技術の進展に伴う環境の変化に対応して年々内容の見直しが必要であり、今年度は医学部図書館で新たに導入した Harrison's Online や UpToDate CD-ROM のデモを取り入れました。「文献検索ガイダンス」は、当初は MEDLINE などの検索方法そのものを解説する内容でしたが、ガイダンスの回を重ねるごとに、検索語の選択、検索式の調整といったデータベース検索全般に共通する手法の習得が重要であることが分かってきました。そこで、最近では基本的な検索に加えて目的に応じたいくつかの検索バリエーションを紹介していますが、こうした変更の際には学生からの質問やアンケートで寄せられるコメント等がとても参考になっています。

今後、利用者に対する情報リテラシー教育を効果的に支援していくためには、客観的評価に基づく実施内容・体制の改善、教官や関係部門等との連携強化、担当するスタッフの知識・技術の向上、多様な情報ニーズに応じた新たなプログラムの検討など多くの課題がありますが、これまでの経験を踏まえつつ、図書館における重要な利用者サービスの一つとして更に取り組みを進めていきたいと考えています。

インターシップ

平成15年度附属図書館インターンシップの実施について

附属図書館では、平成15年度のインターンシップを実施し7名の学生を受け入れました。附属図書館におけるインターンシップは、平成12年度から他大学の司書養成等の一環としての要請を受けて実施しているもので、今年度を含めこの4年間で合計24名の学生を受け入れてきました。実際の図書館業務を体験してもらい職業意識を高めて頂くことを目的に実施しているものです。

今年度は、図書館情報大学の2名の学生が平成15年7月7日～7月28日の15日間、北海道武蔵女子短期大学の5名の学生が平成15年7月29日～8月6日の7日間実施いたしました。期間の長短はありますが、概要説明から始まり利用者サービスまで、約10のセクション(掛)に渡り体験して頂く業務内容は同一です。また、図書館業務の全体を理解し易いように、資料を購入し利用者に提供するまでの一連の流れに沿った順にスケジュールを組んでおります。今年度実施した詳細な内容は下表のとおりです。

インターンシップを終えた学生からは「それぞれから実務以外にも様々な話を聞くことができ、大変参考になりました」「利用者から質問があったときは緊張し冷静に対応することができなかった」などの感想が聞かれました。なお、図書館情報大学の2名からインターンシップの感想をお寄せ頂きましたので、次ページに掲載いたしました。

インターンシップ(図書館実習)日程 (15日間の例)

日 程		実 習 内 容
1日目		オリエンテーション(組織、運営)、施設見学
2日目		図書の選定、発注、受入、支払、廃棄
3日目		雑誌の選定、発注、受入、支払、廃棄
4日目	午前	図書館システムの概要、操作演習、検索演習
〃	午後	図書の目録作成、分類方法
5日目		同上
6日目		同上
7日目		図書の貸出、返却、配架の実習
8日目		同上
9日目		同上
10日目		同上
11日目		レファレンス業務実習
12日目		相互貸借、文献複写サービス業務の実習
13日目		北分館の業務実習
14日目		同上
15日目	午前	北方資料室の業務実習
〃	午後	まとめ

図書館インターンシップを終えて

～就職活動をはじめた今の視点から改めて感じたこと

図書館情報大学 3年 荒木 恵 理

最近「実学」や「産学連携」といった言葉をよく耳にしますが、大学での学問の意義はそうそう変わらないとも思います。特に、学生には、基本・意義・理想といったものが教えられる実態はそうそう変わらないでしょう。

実際、わたしの所属する図書館情報大学（現：筑波大学図書館情報専門学群）では、図書館の「概論」「存在意義」「これからのあるべき姿」といったモデル的な意味での「図書館」について教えられてきました。

その場その場で様々なやり方がある現場を偏りなく紹介するのは、時間・やり方ともに問題があったのでしょう。教授の話に、最近の図書館事情が出てくることもあるのですが、それらはあくまでも話の中心ではなくて、端にちょっと出てくる程度でした。生徒も勿論、先生側にももどかしさがあったのかもしれませんが。

そんななかで、三年次に行われる図書館等のインターンシップは、学生にとって重要な位置を占めるものでした。モデル化した大学の学問での「図書館」とリアルタイムで動いている現場での「図書館」の差が体感できる場だからです。その差を感じることなく、就職を決めてしまうと、雇う側としても雇われる側としても不幸な結果を生んでしまうと思います（図書館学に限らず）。

インターンシップは近年話題になっています。問題も出てきていますが、私個人の体験を基にして言えば、大変役に立ちましたので、少しでも興味ある分野がある又は逆に今学んでいる分野について疑問を感じた方がいれば、インターンシップという機会をお勧めしたいです。そして、その機会が質・量ともに増えるようになれば幸いです。

ここまではインターンシップそのものについての意見ばかりでしたので、この北海道大学の附属図書館でのインターンシップの経験について述べたいと思います。

ここでインターンシップ体験をさせて頂いて、第一の感想は「人を育てようとする意識がある組織」です。

私が図書館のインターンシップをうけた期間は国立大学の法人化が一斉にスタートする2004年4月の9ヶ月前です。準備などで、当然忙しいなか、実習を受け入れてもらえました。そのため、実習以前は、「通常の図書館での仕事の一部を教えて頂ければ有難い」といった程度の期待でした。

しかし、実際に実習が始まると、期待以上のことを行わせていただきました。具体的には、「図書館の仕事全般について」「わかりやすい順序で」「一貫して細かいフォローをうけながら」仕事ができたとあげられます。

図書館司書の仕事は、一般に「カウンターで本の貸し借り」が目立ちます。しかし、その他にも、「図書館に入れる本を選び、書店等に注文し、実物を受け入れる仕事」や「受け入れた本の目録を作る仕事」や「受け入れた本を分類記号（本の背表紙に貼ってあるシールの番号）に基づいて、本棚に並べる仕事」や「他の大学図書館との本の貸し借りを行う仕事（違う図書館にある本を取り寄せてもらった経験はないでしょうか？特に、大学図書館は特殊な本を所蔵していますので、このような仕事の量

は多いです)」、「利用者だけでは探しにくい本を探す手助けをする仕事」などがあります。

それぞれの仕事の特徴あり、かつ図書館には欠かせない仕事なので、将来の良い図書館司書をつくるためには、どの部分も欠かせません。実際、現在の日本の図書館の多くでは、司書を約3年ごとに部署移動させています。

しかし、インターンシップの期間は大体1ヶ月弱です。この限られた時間内で、くまなく部署をまわすとなると、学生の側に、仕事内容を混乱する可能性があります。そのような混乱をなくすために、仕事の意味を確認しながら覚えていける枠をつくる必要があります。

今回、北海道大学附属図書館がとった、「本という実物の流れ(ある本Aの受け入れをして、その目録をとり、分類をし、貸し出しをし…といった)を基に、学生を部署移動させる」方法は、混乱が少なくて済みました。

さらに多くの部署を回る中で、それぞれの部署以外に、全体を通して実習中の面倒を見てくださったインターンシップ係の方がおられ、各部署との連絡などの気配りをして頂いたおかげで、ストレスから離れて、伸び伸びと実習が行えました。



図書館実習を終えての感想

図書館情報大学 3年 山田有美

今回大学の授業の一環として図書館で実習させていただけることになり、私は迷わず北海道大学の図書館を希望しました。実家から近く、交通の便が良いということも理由のひとつですが、公共の図書館に比べて大学図書館はどんなふう経営されているのか外からはわかりにくい部分があるので、それについて学びたいと思ったからです。

北大での図書館実習は私にとって初めてのインターンシップで、最初はかなり緊張していました。何か間違いや失礼をしたらどうしようとドキドキしていました。しかし実際に実習が始まるととても優しい方たちに囲まれ、リラックスして実習に励むことができました。また、実習というものがどういうものかよくわからなかった私は、なんとなくアルバイトのように少し説明されて後は実践で覚えていくようなものを想像していたのですが、実際は違いました。じっくりお話をさせていただいたり、実際の作業では私たちが慣れるまで何度も繰り返し教えていただいたので、ゆっくりと確実に学ぶことができました。

また図書館の業務ばかりではなく、国立大学の一組織として大学のためにどんなことができるか、これからどうあるべきかなどの方針も聞かせていただくことができ、大変勉強になりました。このことは公共図書館に実習に行っては得られなかった経験だと思いました。

今回の実習によって、大学の講義で教わったことや、講義ではよくわからなかった部分を理解することができたと思います。カウンター業務では実際に利用者に対応することで、利用者がどのようなことに疑問を持つのか、どんなふうに対応すれば喜んでもらえるかなどが少しはわかった気がします。また、臨機応変に対応することが必要なのだと学びました。

図書の検収や装備など、利用者からは見えないような作業も実習できてとても楽しかったです。

また、職員の方々が生き生きと働いていたことが印象深かったです。社会人の方々とお話できたこと、休み時間にお茶をいただいたこと、本当によい経験ができたと思います。

反省点は、レファレンス業務でのレファレンスインタビューの演習の際に、質問して確認しなければならない事柄をうまく言えなかったことです。頭では聞いておかなければならない事柄がわかっているのに、実際に人を目の前にしてみるとなかなかうまく言葉にできず、勉強不足を感じました。大学でもうちょっと勉強しておけばよかったと思います。

私は将来司書を目指しているので、今回の図書館実習は大変貴重な体験になりました。この経験を活かして将来自分がどのような仕事をしたいか、そのためには今何を学ばなければならないかを良く考え、公務員試験の勉強に励んでいこうと思っています。

教官著作寄贈図書

2003.7.1-2003.12.31

[本館]

(文学研究科)

望月 恒子	ブーニン作品集〈3〉 たゆたう春/夜	群像社	2003
望月 恒子	呪われた日々/チェーホフのこと	群像社	2003
千葉 恵 ほか著	日本の聖書学 8	ATD・NTD 聖書註解刊行会	2003

(教育学研究科)

逸見 勝亮	親もとをはなれて(学童疎開:写真・絵画集成;1)	日本図書センター	2003
逸見 勝亮	ひもじさに耐える(学童疎開:写真・絵画集成;2)	日本図書センター	2003
逸見 勝亮	絵日記にみる疎開生活(学童疎開:写真・絵画集成;3)	日本図書センター	2003
青木 紀 編著	現代日本の「見えない」貧困	明石書店	2003
大櫃 啓史編著	リーランド博士全集 第1巻	紫峰図書	2003

(経済学研究科)

小島 廣光	政策形成と NPO 法-問題, 政策, そして政治	有斐閣	2003
濱田 康行 ほか著	現在の金融と地域経済	新評論	2003

(法学研究科)

畠山 武道	環境法入門	日本経済新聞社	2003
-------	-------	---------	------

(触媒化学研究センター)

大谷 文章	光触媒のしくみがわかる本	技術評論社	2003
-------	--------------	-------	------

(総合博物館)

天野 哲也	クマ祭りの起源	雄山閣	2003
-------	---------	-----	------

[分館]

(工学研究科)

大友 詔雄	最大エントロピー法による時系列解析	北海道大学図書刊行会	2002
-------	-------------------	------------	------

(言語文化部)

ハイコ・ナロック	Japanische Verbflexive und flektierbare Verbalsuffixe	Harrassowitz	1999
----------	---	--------------	------

(触媒化学研究センター)

大谷 文章	光触媒のしくみがわかる本	技術評論社	2003
-------	--------------	-------	------

(総合博物館)

天野 哲也	クマ祭りの起源	雄山閣	2003
-------	---------	-----	------

ご惠贈誠にありがとうございました。図書館では本学教官が執筆した図書資料を収集しています。新たに本を出版される際には、是非ご惠贈くださるようご協力お願い致します。

会議 (15.7.1～15.12.31)

【学 内】

◎図書館委員会

○第193回 <7月3日(木)>

議 題

- 1 平成14年度決算及び平成15年度予算について
- 2 平成14年度附属図書館事業結果及び平成15年度附属図書館事業計画について
- 3 外部評価の実施について
- 4 本館開架閲覧室・書庫の夏季臨時休室等について
- 5 その他

報告事項

- 1 北分館委員会（6月16日開催）について
- 2 学術研究コンテンツ小委員会について（6月23日開催）
- 3 平成16年度概算要求事項について
- 4 平成15年度大型コレクション収書計画について
- 5 平成15年度科学研究補助金（北方関係資料総合データベース）について
- 6 北海道大学中期目標・中期計画について
- 7 第50回国立大学図書館協議会総会（6月25日～26日）について
- 8 北海道大学図書館講演会について
- 9 その他

○第194回 <12月16日(火)>

議 題

- 1 情報公開法の規定に基づく附属図書館の総務大臣再指定に伴う利用規程の改正について
- 2 その他

報告事項

- 1 法人化準備状況について
 - ① 図書館情報システムの法人化対応について
 - ② 資産承継について
- 2 国立大学法人化後における北海道大学図書関係事務組織の在り方について
- 3 外部評価の現地視察について
- 4 学術研究コンテンツ小委員会について（9月30日開催）
- 5 会計実地監査について
- 6 北海道大学図書館講演会（15年度第2回）について
- 7 国立大学図書館の最近の動向について
- 8 その他

◎ 北分館委員会

○第139回〈7月22日(月)〉

議 題

- 1 平成15年度北分館図書費予算(案)について
- 2 不明図書の処理について
- 3 教官選定図書の2次推薦について
- 4 基本的叢書・講座等の部局への推薦依頼について
- 5 その他

報告事項

- 1 利用者の意見の取り入れ等の窓口について
- 2 視聴覚資料についての意見について
- 3 シラバスデータベースに記載されている「講義指定図書」について
- 4 第139回委員会の議事要録の確定について
- 5 その他

◎学術研究コンテンツ検討小委員会

○第1回〈6月23日(月)〉、第2回〈9月30日(火)〉

【学 外】

◎第36回国立七大学附属図書館部課長会議〈10月3日(金)〉(東京大学)

◎第77次国立七大学附属図書館協議会〈10月3日(金)〉(東京大学)

◎第2回国立七大学附属図書館長会議〈10月3日(金)〉(東京大学)

◎北海道地区大学図書館協議会

○第3回幹事館会議〈8月29日(金)〉(東京農業大学生物産業学部：網走市)

○第53回総会〈8月29日(金)〉(東京農業大学生物産業学部：網走市)

○第45回図書館職員研究集会企画委員会(北海道大学)

第4回〈7月16日(水)〉、第5回〈10月15日(水)〉

◎国立大学図書館協議会

○常務理事会〈10月29日(水)〉(名古屋大学)

○理事会〈10月30日(木)〉(名古屋大学)

人事往来

【平成15年10月1日付け異動】

〔配置換〕

高 畑 周 子 附属図書館情報管理課会計掛（教育学研究科・教育学部会計掛）
長 井 伸 一 歯学研究科・歯学部図書掛長（歯学研究科・歯学部総務課図書掛長）
佐 藤 剛 歯学研究科・歯学部図書掛（歯学研究科・歯学部総務課図書掛）

〔転出〕

猫 塚 和 美 北方生物圏フィールド科学センター会計掛（附属図書館情報管理課会計掛）

【平成15年11月1日付け異動】

〔採用〕

村 木 麻衣子 農学研究科・農学部図書整理掛

〔転出〕

平 田 栄 夫 北見工業大学附属図書館学術情報係長（農学研究科・農学部図書整理掛）

北海道大学附属図書館報「楡蔭」(ゆいん) 第117号 平成16年2月27日発行

〈編集〉 「楡蔭」編集委員会

〈発行〉 北海道大学附属図書館 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL : 011-706-2967 FAX : 011-747-2855
ホームページ <http://www.lib.hokudai.ac.jp>